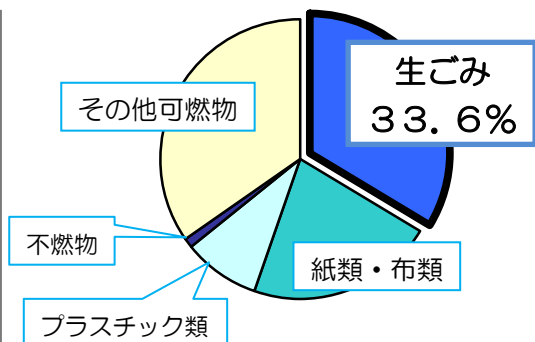


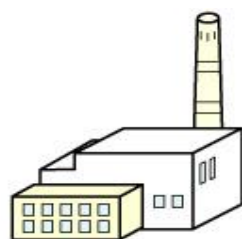
生ごみの水切り



燃やせるごみの約30~40%が生ごみです。
燃やせるごみを減らすには生ごみの減量が必要です。
また、生ごみを減らすことは、環境にとっても優しいことなのです。

ごみを出す前に、水切りをするとどんな効果があるか

- 焼却施設の焼却効率が上がり、CO2の発生を抑える。
炉の負担も軽くなります。
※水分の多い(重量の重い)ものを焼却するために、相当なエネルギーを必要とします。
- 集積所の汚水による汚れが防止でき、悪臭の発生を抑える。
- 収集車からの汚水漏れ防止になる。収集運搬するごみが減ると、収集車の燃費が良くなります。



食べ残しをなくして・・・

生ごみの大半が「調理くず」や「食べ残し」です。まずは、ごみを出さない工夫が必要です。

- ・食材は必要な分だけ買う。
- ・食べられる分だけ作る。残さず食べる。
- ・野菜の皮などの使える部分はできる限り調理して食べる。



水切りをして・・・

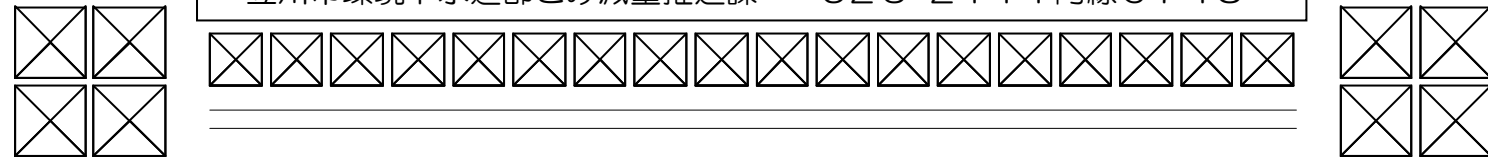
- ◆水にぬらさない
 - ・野菜は洗う前に皮むきをする。(洗う前なので水分を吸うことはありません)
 - ・初めから乾いている生ごみは、水分を含んでいる生ごみと別にする。
- ◆乾かしてから
 - ・野菜くずや果物の皮は三角コーナーに捨てず、トレイの上で乾かして捨てる。
 - ・お茶がらやティーパックは乾かしてから捨てる。
- ◆すっきり水切り
 - ・水切りネットを三角コーナーから外して、三角コーナーで上から押す。
 - ・三角コーナーを傾けておくと、水分が切れる。
 - ・究極！手でしぼる。



出たばかりの生ごみはきれいですが、ゴム手袋をすると抵抗感がなくなります。

ぜひ、生ごみの減量に挑戦してみてください ♪

立川市環境下水道部ごみ減量推進課 ☎523-2111 内線6748



立川市
総合リサイクルセンターだより

みんなで減らそう 燃やせるごみ減量50%!

2012年12・2013年1月号
(第14号)

西砂からの風

発行/立川市ごみ減量推進課

「せん定枝」は大切な資源です

せん定枝の出し方



長さは50cm程度 枝の直径は15cmまで

上記の大きさに切りそろえて、片手で持てる程度の量をひもで束ねる。
あるいは、最大45ℓまでの透明または半透明の袋に入れて口をしぼる。
1回に5束または5袋まで。
毎週水曜日の朝8時までに「燃やせるごみ」の集積所に出してください。

「せん定枝」は「たい肥の素」に生まれかわります



「せん定枝」は、「たい肥の素」に生まれかわります。
せん定枝を砕いてチップ化したものに学校給食等から出る残さなどを発酵させたものを混ぜ、数ヶ月間熟成させると「たい肥」になります。
総合リサイクルセンターでは、熟成が順調に進み始める2週間から1ヶ月頃から「たい肥の素」として配布を始め、その後の熟成は利用される方をお願いしています。なお、たい肥の素は、東日本大震災後は全て放射性物質の測定を行い、配布しております。

市内の方は重量にかかわらず無料、市外の方は1kgあたり2円。
配布日時：月曜日～金曜日 午前8時30分～正午、午後1時～4時



「たい肥」は育ちのよい植物・農作物を作ります



たい肥は、植物にとって理想である水もちが良く、水はけの良い土壌を作ります。
微生物が増え、病害虫の発生を抑えて、安定した土壌を作ります。
完熟したたい肥は、臭気がなく、触れてもベタつきがありません。
たい肥は、土壌を改善するために使用されるもので、失われた栄養を補充するには、肥料が必要です。

完熟させたたい肥は土・肥料と混ぜて、使ってください。

注意：未完熟のたい肥は、有機物の分解中のため、土壌中の酸素を消費し、土壌が酸欠状態になってしまうため、根腐れ等をおこす恐れがあります。

